



京都大学アジア研究教育ユニット  
アジア親密圏/公共圏教育研究センター  
公開セミナー



# 高齢者の癒しと仏教の役割： 日本とタイとの違い

講師： Duangjai LORTHANAVANICH (Thammasat University)

日時：3月24日(火) 15:00～17:00

場所：社会学共同研究室(京都大学文学部新館5階)



使用言語  
日本語

日本仏教とタイ仏教とは同じ仏教と言っても考え方が異なる。タイ仏教は上座仏教であり、「儀式仏教」とよばれるように、葬式や仏教行事のための宗教であった。しかし2000年から「仏教ブーム」が起こり、寺院と僧侶の役割が新たな展開を見せるようになった。仏教のエッセンスを説教したり瞑想修行(Vipasana)を指導したりできる僧侶も増え、快適な瞑想修行施設も増えてきた。一方、実践する側も高齢者にも限らず、30代～40代の中間層や家族も気楽に行くようになった。10年前からタイで瞑想修行をはじめた私は、実践的な仏教は人の心を癒す役割を果たしているという観点から、日本社会では高齢者の心の癒しのために仏教がどのような役割を果たしているのかを明らかにするため、高野山の真言仏教の信者と立正佼成会の信者を対象にして、2013年10月にヒアリング調査を実施した。本報告では、この調査の結果に基づき、日本の伝統仏教と新興仏教との違い、さらに日本仏教とタイ仏教の違いに焦点を当ててお話ししたい。

問合せ先 TEL: 075-753-2734 or 2805 参加無料・当日参加歓迎